

クールシェアスポット

大芦川観光公害対策
／介護予防運動

財政状況
／国保のお知らせ

後期高齢者医療
／景観重要建造物 図鑑

市民のひろば

春の叙勲
／フラッシュユ

みんなの健康

お知らせ

市功労者
／さつきマラソンステップ



林野火災の活動を報告

—岩手県大槌町林野火災において消火活動に従事—

4月22日発生した岩手県大槌町での林野火災に、鹿沼市消防本部は、4月24日から5月2日までの9日間にわたり緊急消防援助隊栃木県大隊として、現地で消火活動に従事しました。

5月15日に派遣隊長らが代表し、市長へ第1次派遣隊から第4次派遣隊まで延べ32人が活動にあたったことなど支援内容を報告しました。

鹿沼に訪れた松尾芭蕉

—芭蕉の笠替え 2026—

「奥の細道」の3日目、芭蕉は鹿沼に1泊し、笠とわらじを新調。翌朝、古い笠を光太寺に残して日光へ。寺では、芭蕉が亡くなった後、古い笠を埋めて笠塚をつくり供養したといわれています。

そのことにちなんだ「芭蕉の笠替え」行事が、5月17日にまちの駅 新・鹿沼宿で行われ約80人が参加しました。

今年で14回目のこの行事は、チェーンソーアートの芭蕉像が持つ笠を、年に1回取り替えるものです。笠替え後は、光太寺に古い笠を奉納し、屋台のまち中央公園にある芭蕉像の体を拭く「お身ぬぐい」も行われました。



市内に“花”ほころぶ

—開催! さつきの大祭典—

5月23日～6月1日、第55回鹿沼さつき祭りが市花木センターで開催され、色とりどりのさつきの花が展示されました。23日には、「グルメフェア&花火」が開催され、黒川河畔に多くの来場者が集まり、賑わいを見せました。

24日には市花木センターで「第3回 花のミニ甲子園・高校生鹿沼さつき花コンテスト」が開催され、テーマ「Rezonance(共鳴)」に合わせてさつきや季節の花々をその場で見事にアレンジし、観客を魅了しました。



独自の表現技法「零度染^{れいどぞめ}™」で鹿沼をアピール —浅井沙弥香さんにかぬまふるさと大使を委嘱—

5月18日、市出身で現在はフランスで制作活動を行う浅井さんにかぬまふるさと大使を委嘱しました。

浅井さんの発案した「零度染™」は、氷や雪などを素材として表現をする技法で、委嘱式当日も布地にインクと氷を使って絵を描き上げました。浅井さんは「今後はワークショップなども行いながら、鹿沼を盛り上げていきたい」と話していました。



おもてなしとボランティアの心で人と人を結ぶ104駅！ —「まちの駅ネットワークかぬま」発足から20年—



5月26日に、14駅の新たな「まちの駅」認定式と「まちの駅ネットワークかぬま」の発足20年記念交流会が開催されました。

まちの駅は個人の家やお店などが、トイレや休憩の場を提供する小さな案内所で、人と人との出会いと交流の場です。鹿沼市は全国1,021駅中、104駅と日本一を誇ります。

この日は、新しくまちの駅に認定された14駅の他、全国からまちの駅ネットワークの皆さん53人が集まり、互いに交流を深めました。

厳しい暑さを避暑地で過ごす —前日光牧場で牛の放牧始まる—

5月27、29日に前日光牧場（上粕尾）で和牛と乳用牛19頭の放牧が始まり、心地よい風が吹き抜ける中、牛たちは仲間同士で元気に走り回ったり、草をはんだりしていました。

牛たちは夏の厳しい暑さを避け、標高が1,300メートルと涼しい前日光牧場で過ごし、11月頃まで放牧を予定しています。



鹿沼市花「さつき」は人権のシンボル —ローマ法王庁大使がさつき祭りをご観覧—

市では、一本の樹からさまざまな色や形の花をつけるさつきを、多様性と人権のシンボルと位置づけています。ローマ法王庁大使館との交流は、2019年にローマ法王へ鹿沼のさつきを献上したことから始まりました。

今回の鹿沼さつき祭り期間中には、ローマ法王庁大使がご来訪され、平和への思いを新たにする貴重な機会となりました。

